

社寺建築学研究を受講して

B084869 小笠原 進太

私は生物生産学部の4年生であり、2011年前期に文学部の社寺建築学研究という授業を受けました。学部も違い、自分の専門とは全く関係がないこの授業を受けたのは他学部の授業で、興味があるのを受けてみたいという思いがあったからです。大学生は社会に出て働く前に様々なものに触れて成長するべきだと私は思っています。それが恋愛であったり、アルバイトであったり、研究室であったり、いろいろあっていいと思います。しかし、広島大学のような総合大学にいるのであるならば、自分の興味がある分野の他学部の授業を受けて、もっと自分の視野を広げたいと感じていました。私が京都や尾道などに観光に行くとコースはほとんど社寺建築を巡るコースになっていました。しかし、社寺建築に関する知識は全然ありませんでした。あったとしても「この寺は教科書に載っていたところだな」という歴史背景くらいでした。この授業を受ければその社寺建築を見るだけでその凄さがわかるかもしれない、そういう思いを持ってこの授業を受けました。

それでは実際の授業の内容と構成を述べていきたいと思います。授業の内容から説明します。学生は講義が始まる前に講義のプリントをとります。三浦先生がいらっしやって授業が始まると、まずその回の授業のテーマの概要について板書しながら説明されます。その後、プリントを見ながら先生が説明されていきます。前半部分の数枚を深く説明され、残りのプリントは数点ピックアップして軽く説明されるといった内容でした。次に授業の構成について説明します。最初の4回の授業で構造や年代変化、形式といった社寺建築における概要を行います。次の5回目の授業からは、各時代や塔婆など、的を絞って実際の社寺建築を見取り図などから説明するといった構成でした。

その中でも印象に残った授業を一つ挙げたいと思います。それは第11回目の授業である厳島神社の授業です。授業の内容は導入として厳島神社に関する誤った歴史を否定し、現在の社殿に関する定説を紹介しました。その後、厳島神社に平安時代の貴族の趣向が入っていることや、土石流や暴風の影響が出るような場所にあるにもかかわらず、本殿などで平清盛が作った部分はその影響が出ない場所にもものすごく計算されて作られており、影響が出るのはあとで増設された場所であることなどでした。私は厳島神社にたいして海の上にある朱塗りのきれいな神社という印象を持っているだけでした。しかし授業を聞いて、史上最大の本殿を持っていることや平安時代の寝殿造を応用していることなどを学び、厳島神社に対する印象が変わりました。寝殿造の建物では池が庭に必ずありますが、厳島神社はその池の代わりとして海を配置しています。そのため海の上に浮かぶ神社となり、とても壮大な神社なのだと認識が変わりました。

「社寺建築学研究」を受けて、社寺建築に対する見方が全体的に変わったと思います。授業を受ける前と比べて、いろんな視点で社寺建築を見てみたいと思っています。次に

社寺建築を見に行った時には塔婆や回廊などがどのように配置されているのか、またどのような組物が使われているのかなどを見たいです。

このように、専門知識がなくても問題なく受講でき、受講後に自分の知識と意欲が大きく増したので、「社寺建築学研究」は **My Best** 授業です。